『剣道との出会い』

福島県
玉川剣友会
小学６年生　　青　木　結　菜

「剣道は、本当にすばらしい武道だ。」今、私は、胸を張ってそう言える。

私が剣道を始めたのは、３年前のあの言葉がきっかけだった。

３年前まで私は、宮城県多賀城市に父の仕事の都合で住んでいた。でも、あの東日本大震災の後、いわきへ帰ってくる事が決まった。祖父母の住んでいるいわきへ帰ってこれる事は、とてもうれしかったのだが、当時小学２年生で引っ込み思案だった私は、大好きな友達と別れ、いわきの学校で上手くなじめるか、とても心配だった。

３年生になっていわきの学校に通い始めても、話す友達もいなく、自分から友達の輪の中にとけ込む事もできず、学校を何日も休む日があった。朝、母に声をかけられても、「いやだ、学校なんか行きたくない。」と言って、母や祖父母を困らせたり、物にあたって八つ当りした時もあった。そんなある日、祖母に、

「結菜、剣道をやってみたら。今、大好きな友達と別れ、すごくさびしい気持ちで一杯だろうけど、そんな時こそ、何かに集中してがんばってみるのもいいんじゃない。」

と言われた。そう、この一言で私は変わる事になったのだ。この事がきっかけで私は、剣道に自然と興味がわいてきて、剣道というものを一度みてみたいという気持ちになった。私は、それまで剣道がどんな事をするのか、どんな事を競うのか、全く知らなかったのだが、初めてけい古を見に行くと、先ぱい達がけい古にはげんでいて、一人一人が真剣に取り組んでいた。それを見た私は、

「すごい、かっこいい、私もあんな風になりたい。」とそんな気持ちで一杯になった。

そして、剣道を習い始めると最初に、基本のすり足や竹刀のふり方などの剣道の基本や、相手に対しての尊敬、感謝などのうやまう気持ちを教えてもらった。しかし、その時の私はまだ、相手をうやまう気持ちの意味は、よく分からなかった。その言葉の意味が分かってきたのは、私が、先生方の試合を初めて見た時の事だった。もちろん先生方の試合は、とてもきれいで、一本一本ていねいですばらしい試合だったが、私がとてもおどろいたのは、その後だ。負けた方も勝った方も息を合わせて礼をし、とても落ちついている様だった。私はそれを見て、「負けてしまった方は、絶対にくやしい気持ちで一杯のはずなのに、いっしょに戦ってくれた相手への敬意を決して忘れない。これが相手をうやまう気持ちなんだ。」

と感動した。この事が分かったころには、自分から少しずつ他の人に話しかけられるようになり、仲の良い友達もでき、クラスにもとけこめるようになっていた。気が付いた時には、学校への不安も無くなり、毎日楽しく学校へ通えるようになっていたのだ。

私は剣道と出会い変わる事ができた。剣道は、人を変える事のできるすばらしい武道で、日本の大切な伝統なんだと心からそう思う。そして、このすばらしい日本の伝統である剣道をする人がもっと増えればいいなと思った。

今、私の目標は、一回一回のけい古そして、一つ一つの試合を先生方や先ぱい方に教えて頂いた事を生かし、真剣に取り組むこと。常に相手への尊敬、感謝のうやまう気持ちを忘れないこと。剣道することで自分の技、心をみがき、きたえていくのが今の私の目標だ。また、前の私のように引っ込み思案な性格でなやんでいる人に、剣道を通して仲間がたくさんできればいいなと思っている。それは、剣道は、人を変える力を持っているからだ。今、私は、胸を張って

「剣道に出会えてよかった。剣道が大好きだ。そして、一番に、剣道は、本当にすばらしい武道だ。」

そう言いたい。